

地方とスポーツにおける関係性のイメージ分析

Image analysis of the relationship between region and sports

1K04B104-2

篠場 一成

指導教員

主査 作野誠一先生

副査 宮内孝知先生

緒 言

近年、スポーツというものが私たちの日常の中に非常に多く関わるようになった。サッカー日本代表の活躍、野球の全日本選抜が優勝を果たしたワールドベースボールクラシック、日本人メジャーリーガーの活躍、オリンピック本大会や、それまでの予選、バレーボールのワールドグランプリやゴルフなどのメディアが取り上げるスポーツ、フィットネスやダイエットなどの健康に良いとされるスポーツおよび趣味で行われるスポーツなど、様々なものがあげられる。特に筆者が注目したのが「スポーツと地域」というテーマである。最近では、人々の交流や親交を深めることができる総合型地域スポーツクラブ、プロ野球北海道日本ハムファイターズや J リーグの各クラブが目指している地域密着型のチームづくりなど、地域とスポーツがより密な関係になってきていると考えられる。アジアチャンピオンズリーグを制した浦和レッドダイヤモンズは地域密着型の代表的クラブの1つであるが、地元サポーターの応援は優勝の大きな後押しとなったはずである。浦和と聞くと「レッズ」、あるいは「サッカー」といったイメージを想像する。友人と話をしている、スポーツの話題になることがある。「〇〇地方は〇〇が強い」、「最近、〇〇地方では〇〇が流行っている」などと話をすることもあるが、これらのイメージはどこから来るものなのだろうか。例えば静岡といえば「サッカー」、四国といえば「野球」などというように、一般的な地方のスポーツイメージというものがあると思われるが、これらはどのようにして形作られるのだろうか。そこで、本研究では、スポーツにおける地域イメージと、そのイメージを決定づける要因は何であるのかを考察していく。

方 法

本研究では独自のアンケート用紙を使い、大学生を対象にスポーツにおける地域イメージを決定づける要因を明らかにする。アンケートでは、性別、年齢、出身地(都道府県)および今までに部活動で行ったことのあるスポーツを記入してもらう。次に、全国を9つに分割した各地域(ブロック)で盛んだと思うスポーツをそれぞれ1つずつ自由回答してもらった(重複回答可)。さらに、そこで記入した回答を選んだ理由をカテゴリーの中から選んでもらった。このアンケートの結果から、各地域とスポーツのイメージを決定づける要因をブロック別アンケート結果からの分析、性別に

よる比較、出身地別の比較、出身部活動からの比較により明らかにする。

結果と考察

アンケートは、男性 96 名、女性 76 名から回答を得た。どの地方においても野球という回答率が5%を超えており、日本における野球というイメージの強さがうかがえた。北海道、東北地方、北信越地方では、スキー、アイスホッケー、カーリングなどがスポーツイメージとして連想され、その理由として「レジャースポーツとして盛んだから」、「地域スポーツとして普及しているから」という回答が多くみられた。寒い地方では、その気候にあったスポーツがイメージされるということが分かる。中部地方、中国地方では 50%以上の回答数を得たスポーツイメージがなく、理由も「なんとなく」という回答が多かった。この2つの地方では、スポーツがイメージされづらい傾向にあるということが分かる。

スポーツイメージの決定理由として「強い高校があるから」という回答が多かったが、このことから全国大会における高校の活躍が地方のスポーツイメージ形成に大きな影響を及ぼしていることが分かる。

また性別によってイメージされるスポーツに差がみられた。男性が行うスポーツは男性が、女性が行っているスポーツは女性がイメージしやすいということが分かった。理由でも「なんとなく」という回答が男性よりも女性の方が多く、女性の方が「地方＝スポーツ」をイメージしにくいということがうかがえた。

今回は、関東周辺出身者の回答数が多く、すべての都道府県出身者からの回答を得ることは出来なかったため出身地別からの比較は行わなかった。

出身部活動は大きく影響を及ぼしている。自身が所属していた部活動と同様のスポーツをイメージしやすい。

今後の課題

今後の課題として、本研究で行うことが出来なかった年齢別による比較、出身地別の比較をすることが期待される。高校スポーツの活躍という点でも、細かい項目で調査されることが望まれる。本研究によって、スポーツ決定要因を明らかにすることはできたが、さらに、詳しい決定要因を明らかにするには研究の継続が必要となり、これからの研究の蓄積が期待される。